原発性骨及び軟部腫瘍で組織診のついたもの，骨悪性8例，骨良性12例，軟部悪性4例，及び軟部良性3例の計27例であった．

結果

(1) 骨悪性腫瘍では，^{99m}Tc- ピロ燐酸，^{67}Ga-citrate 及び ^{169}Yb-citrate 共に高率に取込みを認めた．

(2) Ga と Tc の両者によるスキャンの組合わせで，良性との鑑別が或る程度示唆されたように思われた．即ち小数例乍ら我々の経験をまとめると，Tc (卌), Ga (卌) は悪性 (m), Tc (卌)・Ga (+) は m, Tc (+)・Ga (+)は m 又は良性 (b), Tc (+)・Ga(−) は，b, Tc(−)・Ga(−) は b であった．

(3) 良性では取込み率は低かったが，Fibrous dysplasia では3核種共に，経験した3例全例に著明ではないが明らかな取込みを認めた．Solitary bone cyst ではむしろ取込み低下の傾向が見られた．

(4) 軟部腫瘍では Ga がよく，良性悪性の鑑別に役立った．

以上について述べ，興味ある症例を供覧した．更に症例を増やし，検討を加えて行きたい．

37. 頭頸部腫瘍の治療による ^{67}Ga スキャンの陰性化について

東　与光　青山　亘
(神奈川歯大・放)
志村　介三　新藤　潤一
(同・口腔外科)
桜井　栄
(警友病院・耳鼻)
中村　功　加藤　秀夫
(同・内)

悪性腫瘍への ^{67}Ga の取り込みが，治療によって減少する現象は，古くから臨床例でもしばしば経験している．わが国でも，中村らは肺癌について，油井らは頭頸部腫瘍について，放射線照射前後の ^{67}Ga シンチグラムの変化を報告している．

今回，私たちも頭頸部腫瘍の12例について放射線あるいは薬物治療の前後に ^{67}Ga スキャンを施行し，シンチグラムの変化をしらべた．症例は上顎腫瘍6例（扁平上皮癌3例，腺癌1例，悪性黒色腫1例，細網肉腫1例，頸部腫瘍4例（未分化癌1例，細網肉腫2例，ホジキン病1例），扁桃腺腫瘍1例（細網肉腫），耳下腺癌1例（扁平上皮癌）である．これらの悪性腫瘍の治療にさいして，^{67}Ga スキャンがどのような意義があるかをつぎの2点について検討した．すなわち，(1) ^{67}Ga シンチグラムは治療効果を反映するか？

(2) ^{67}Ga シンチグラムによって治療効果を予測することが可能であるかである．

(1) については，治療後の ^{67}Ga シンチグラムはすべて陰性化あるいは稀薄化の傾向を示した．とくに，悪性リンパ腫ではこの傾向が著明であり，1500R で陰性化した症例もみられた．また，放射線照射の途中 (3000R) で ^{67}Ga スキャンすると，残存した陽性像と腫瘍の残存部が一致していた．また，治療によって，腫瘍が縮小しなくても，^{67}Ga シンチグラムの希薄化した症例がみられた．手術後の組織検査の結果はシンチグラムを裏づける所見であった．以上のことから，^{67}Ga シンチグラムは治療効果を反映しているように思われた．

(2) については，同一症例で腫瘍が複数みられた時，^{67}Ga シンチグラムで陽性像の強い部位ほど治療の効果が大きいように思われた．反対に弱い陽性像の部位は治療効果が小さいように思われた．また，同じ組織像の悪性腫瘍では症例が異なっていても ^{67}Ga シンチグラムで陽性像の強い部位は弱い部位よりも治療効果が大きいように思われた．しかし，まだ症例数も少なく，今後とも症例を重ね，検討してゆきたい．

Presented by Medical*Online